

古間木山地区農業集落排水処理施設  
維 持 管 理 要 領

## 2 主要装置の概要

- (1) 自動荒目スクリーン : 目幅の有効間隔を **50mm** とする。
- (2) ばっ気沈砂槽 : 有効容量は時間最大汚水量の **3.27** 分間に相当する容量とする。攪拌装置及び排砂装置を設置する。
- (3) 破砕機及び細目スクリーン : 破砕機は、汚物等を有効に破砕することができる構造とし、時間最大汚水量を処理できる能力とする。  
破砕機の副水路として、目幅の有効間隔が **20mm** の手掻式の細目スクリーンを設置する。
- (4) 原水ポンプ槽 : 有効容量は、時間最大汚水量の **18.9** 分間分に相当する容量とする。
- (5) 流量調整槽 : 有効容量は、日平均汚水量の **7.15** 時間分とする。槽内汚水を攪拌できる装置を設置する。
- (6) 自動微細目スクリーン : 目幅の有効間隔を **2.0mm** とする。
- (7) 汚水計量槽 : 有効容量は、計画移送水量の **0.985** 分間分とする。
- (8) 回分槽 : 槽数を 2 槽とし、各槽ばっ気攪拌装置・上澄水排出装置・散水装置・汚泥引抜き設備を備えた構造とする。  
有効容量は、日平均汚水量の **22.3** 時間分に相当する容量とする。槽の有効水深は、**5.0m** とする。

ばっ気攪拌装置は、回分槽内の機械的混合攪拌または空気の供給による気液混合攪拌ばっ気が可能なものとし、送気量は BOD 除去を所定の時間内に行える能力のものとする。上澄水排出装置は、最大水位より最小水位まで所定の下降速度で降下し、上澄水を排出できる構造とする。越流負荷は、 $28.9\text{m}^3/\text{m}\cdot\text{時}$  以下とし、下降速度は引拔水深に相当する水深を 2 時間程度で降下する速度とする。

汚泥引抜き設備は、余剰汚泥を自動的に引抜いて、汚泥濃縮槽へ所定量を移送できる構造とする。

- (9) 散水ポンプ槽 : 有効容量は、散水ポンプ能力の 16.6 分間分に相当する容量とする。
- (10) 消毒槽 : 有効容量は、回分槽からの移流水量の 18.4 分間分に相当する容量とする。
- (11) 汚泥濃縮槽 : 有効容量は、引拔余剰汚泥量の 2.41 日分の容量とする。  
脱離液は流量調整槽へ戻す構造とする。  
平面形状は、正方形にするとともに底部は、ホッパー形状とし、勾配は  $61^\circ$  とする。
- (12) 汚泥貯留槽 : 有効容量は、汚泥の搬出計画に見合う 60.4 日分に相当する容量とする。  
槽の下部に汚泥攪拌用ばっ気装置を設置する。ばっ気装置の能力はばっ気強度  $1.0\text{ m}^3/\text{m}\cdot\text{時}$  に相当するものとする。